

式辞

本日ここに、保護者、ご来賓の方々をはじめ皆様のご臨席のもと、令和四年度、国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校第三十四回電子機械工学科及び第三十一回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第十七回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を迎えることとなりこの上ない喜びです。

電子機械工学科の三十七名および制御情報工学科の四十二名のみなさんは、五年間の高等教育の課程を修了し、準学士（工学）の称号を授与されました。基礎学理と教養に加えてメカトロニクスや情報応用システムに関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者として成長されました。

専攻科生産システム学専攻を修了された六名におかれては、大学改革支援・学位授与機構の定めた条件を満たし学士（工学）の学位を授与されました。高度の学術と広い領域の専門的学術を修められ、国際的感覚と広い視野を持つ、研究・技術開発と創造能力を発揮できる技術者として成長されました。

皆さんの今日に至るまでの不断の研鑽を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げ、今後のご活躍を祈念申し上げます。

卒業生のみなさんに二つのことを申し上げます。

ひとつめ、私たち人類は、前世紀の「スペイン風邪」とともに今世紀、「新型コロナウイルス感染症」によるパンデミックを経験しています。地球規模の感染拡大は社会システムに大きな変革をもたらしました。前世紀との大きな違いは、感染に関する膨大なデータが残され、未来に向けてしっかりと教訓が生まれてくると期待できること、さらにはあらためて周囲への思いやりや温かさを学んだことと考えます。

ふたつめ、Society 5.0、超スマート社会といわれる時代に向かって、卒業後は、さまざまな居場所と領域で、あるいは産業界において新たな製品やシステムにより価値を創造し、あるいは技術者として都市や地域の抱える諸課題を解決する、様々な社会的課題の解決に果敢に取り組んでいくこととなります。自らが生きるためにはたく、それはそれで結構ですが、同時に企業活動含めて、結局は社会のため、人のために働いていくこととなります。このことを忘れないでください。みなさんはPBL（課題解決学修）でも社会課題の解決に取り組んだスキルをもっています。

さて、何が大切か？それはスピードとストレンクスです。まず、短い時間で必要な多くの情報を集めるスキル、これに加えてそれらの情報を編集するスキルが重要です。五年間の高専の学園生活で成長したで自らを踏まえて、この情報編集力にさらに磨きをかけていただきたいと思います。編集された情報を踏まえたすばい決断が求められます。スピードとストレンクス。お忘れなく。

人と人とのコミュニケーションをしっかりと、周囲をしっかりと把握し、相手を見つめて自分もみつめる、スピード感をもって議論しながら、ポンチ絵が描ける。大事です。メタ認知能力を高めよ、ともいわれていますが、PDGになれている皆さんは、心配無用です。やっていきます。自分で自分の行動を観察して制御する。

これからの人生、良いこともあれば難しい問題にぶつかれることもあります。みなさんはひとりではない。今日ここに集まっている卒業生の友人、保護者、教職員の方々、先輩や後輩たちと絆をしっかりと結んでください。昨年、我が国に高専が創設されて六十周年の節目を迎えましたが、来る令和七年（二〇二五年）は、校祖近藤真琴先生が本校の母体となった航海測量習練所を東京都港区芝に設置された明治八年（一八七五年）から起算して、150周年の記念すべき年となります。ぜひ学校を訪れてみてください。

本校と産業界や行政機関等との連携を高める国立鳥羽商船高専連携協力会も昨年四月に発足しています。学校から巣立っていくみなさんのみならず、みなさんの職場となる産業界はじめ、ひろく産学官金との連携を深めていきます。みなさんは、これからも諸先輩とつながり、また後輩を引っ張ってってください。学校は母なる学校、母校であり、また母なる港です。

人生一〇〇年ともいわれる時代、みなさんの今日までの不断の努力にあらためて敬意を表します。式辞といたします。

令和五年三月十八日 独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校長

和泉 充